

製品名: K-Ras ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13128**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	22kDa

抗原情報

遺伝子名	KRAS
別名	GTPase KRas (K-Ras 2;Ki-Ras;c-K-ras;c-Ki-ras) [Cleaved into: GTPase KRas, N-terminally processed]
遺伝子 ID	3845.0
SwissProt ID	P01116
免疫原	抗血清はヒト KRAS の C 末端領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 150-189

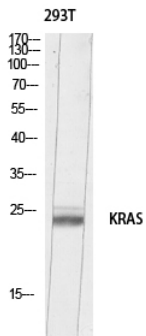
背景

この遺伝子は、哺乳類 ras 遺伝子ファミリーに属する Kirsten ras がん遺伝子ホモログであり、低分子 GTPase スーパーファミリーに属するタンパク質をコードしています。単一のアミノ酸置換が活性化変異の原因となります。結果として生じる形質転換タンパク質は、肺腺癌、粘液性腺腫、膵管癌、大腸癌など、様々な悪性腫瘍に関与しています。選択的スプライシングにより、C 末端領域が異なる 2 つのアイソフォームをコードする変異体が生成されます。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],代産物: アイソフォームは、2 つの選択的エクソン (IVA および IVB) によってコードされる C 末端領域が異なります。疾患: KRAS 遺伝子の欠陥は、急性骨髄性白血病 (AML) の原因の 1 つです[MIM:601626]。急性骨髄性白血病 (AML) は、造血前駆細胞の発達初期段階での増殖が阻害される悪性疾患です。疾患: KRAS 遺伝子の欠陥は、心顔皮膚症候群 (CFC 症候群) [MIM:115150] (心顔皮膚症候群とも呼ばれます) の原因となります。CFC 症候群は、特徴的な顔貌、心臓欠陥、および精神遅滞を特徴とします。心臓欠陥には、肺動脈狭窄、心房中隔欠損、肥大型心筋症などがあります。罹患した人の中には、まばらで脆い毛髪、角質増殖性皮膚病変、全身性魚鱗癬様症状などの外胚葉異常を呈する人もいます。典型的な顔貌はヌーナン症候群に類似しています。これらの特徴には、両側頭頂部の狭窄を伴う高い額、眼窩上隆起の形成不全、下方傾斜した眼瞼裂、下方陥没した鼻梁、および突出した耳介後角化などが含まれます。CFC 症候群の遺伝形式は常染色体優性です。疾患: KRAS 遺伝子の欠陥は、若年性骨髄単球性白血病 (JMML) [MIM:607785]の原因です。JMML は小児骨髄異形成症候群であり、小児期の骨髄異形成症候群 (MDS) の約 30%、白血病の 2% を占めます。組織浸潤を伴う白血球増多と、顆粒球マクロファージコロニー刺激因子に対する骨髄系前駆細胞の in vitro 過敏症を特徴とする。疾患: KRAS 遺伝子の欠陥は、ヌーナン症候群 3 (NS3) [MIM:609942]の原因である。ヌーナン症候群 (NS) [MIM:163950]は、顔貌異常、低身長、眼間開離、心奇形、難聴、運動遅延、出血性素因を特徴とする疾患である。遺伝的に異質で比較的頻度の高い症候群であり、推定発生率は出生児 1000~2500 人に 1 人である。まれに、NS は若年性骨髄単球性白血病 (JMML) を合併することがある。NS3 遺伝子は常染色体優性遺伝です。疾患: KRAS 遺伝子の変異は癌の発生に関与しています。酵素調節: GDP に結合した不活性化型と GTP に結合した活性化型を交互に発現します。グアニンヌクレオチド交換因子 (GEF) によって活性化され、GTPase 活性化タンパク質 (GAP) によって不活性化されます。機能: Ras タンパク質は GDP/GTP に結合し、固有の GTPase 活性を有します。オンライン情報: シンガポールヒト変異・多型データベース,類似性: 小型 GTPase スーパーファミリーに属する。Ras ファミリー。サブユニット: PHLPP と相互作用します。、

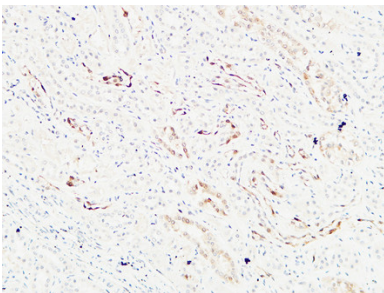
研究分野

MAPK_ERK_Growth;MAPK_G_Protein;ErbB_HER;ケモカイン;背腹軸形成;軸索ガイダンス;VEGF;タイトジャンクション;ギャップジャンクション;ナチュラルキラー細胞を介した細胞傷害;T 細胞受容体;B 細胞抗原;Fc イプシロン RI;長期増強;神経栄養因子;長期抑制;アクチンと細胞骨格の調節;インスリン受容体;GnRH;プロゲステロンを介した卵母細胞成熟;メラニン形成;アルドステロンを介したナトリウム再吸収;がんにおける経路;結腸直腸がん;腎細胞がん;膵臓がん;子宮内膜がん;神経膠腫;前立腺がん;甲状腺がん;黒色腫;膀胱がん;慢性骨髄性白血病;急性骨髄性白血病;非小細胞肺癌;

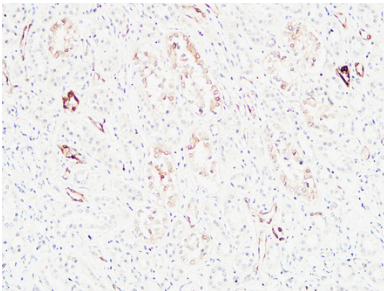
画像データ



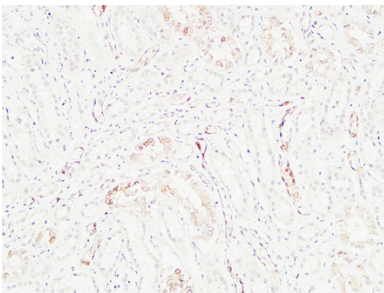
KRAS 抗体を用いた 293T 細胞溶解のウェスタンブロット解析。抗体は 1:500 に希釈し、二次抗体は 1:20000 に希釈した。



パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト腎臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30分)。